

ミズゴマツボ *Stenothyra japonica* Kuroda

【選定理由】

本種は原記載時 (Kuroda, 1962) に岩手、茨城、千葉、三重、大阪、島根、岡山、山口、高知、長崎、鹿児島県が分布域としてあげられているが、1990年以降に生息が確認されているのは新潟県 (佐藤, 1992)、千葉県 (黒住・岡本, 1994)、山口県 (Hosaka & Fukuda, 1996)、兵庫県 (増田・内山, 2004)、熊本県 (不知火町; 木村未発表) と分布域は広いが現生息地は少なく、そのいずれの場所も局地的で生息面積は小さい。今まで愛知県からは木曾川中流域より本種の健全な個体群が確認された (木村, 2006)。現在、愛知県からは上述の生息地のみ知られているにすぎない。近年の調査では 2005 年当時より個体数の減少が確認されており、絶滅の可能性が高い種であると評価された。



愛西市木曾川本流, 2006年10月31日, 木村昭一採集

【形態】

殻は殻長約 5-7 mm と小型。貝殻の外形は卵形で、各層は良く膨れ、縫合部は強くくびれる。螺旋管の巻きに沿って点刻が連続する。殻口は体層から狭まり円形。臍孔はない。蓋は石灰化して厚い。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、現在木曾川中流域の 1 地点でのみ生息が確認されている。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島南部、国内では岩手・秋田県～九州に分布する (福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

県内の本種の生息地は、本流から直接流れの当たらないワンドのような砂泥底で、淡水域ではあるが、付近の底質中にゴカイ類が生息していたり、潮汐の影響が認められた。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような生息環境は、河川改修や護岸工事等でほとんど現存しない。

【保全上の留意点】

上述の通り生息地の破壊が極めて深刻で、絶滅が危惧される。

【引用文献】

- 福田 宏, 2012. ミズゴマツボ, p. 45. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- Hosaka, K. & Fukuda, H., 1996. Discovery of a population of endangered brackish-water snail *Stenothyra japonica* (Gastropoda: Neotaenioglossa: Stenothyridae) and characteristics of the accompanied molluscan fauna in Onoda City, Yamaguchi Prefecture, western Japan, with a comment on the conservation value. *The Yuriyagai, Journal of the Malacozological Association of Yamaguchi*, 4(1/2): 65-96.
- Kuroda, T., 1962. Note on the Stenothyridae (aquatic Gastropoda) from Japan and adjacent region. *Venus*, 22(1): 59-69, pl. 4.
- 黒住耐二・岡本正豊, 1994. ミズゴマツボを千葉県の水田で確認. *ちりぼたん*, 24 (3/4): 84.
- 増田 修・内山りゅう, 2004. 日本産淡水産貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類. *ピーシーズ*, 240pp.
- 木村昭一, 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録. *かきつばた*, (32): 22-27.
- 佐藤 修, 1992. 横越村とその付近の非海産貝類. *しぶきつば*, (13): 7-10.

(木村昭一)